

知事訪米の概要 (平成30年3月)

平成29年度
沖縄県知事公室

— 目次 —

1	訪米概要	1
2	訪米日程	2
3	訪米団員名簿	3
4	活動の概要	
(1)	サンフランシスコ沖縄県人会との懇談会	5
(2)	ピーター・ガルビン氏面談	5
(3)	トーマス・フィンガー氏との面談	6
(4)	辺野古訴訟関係記者囲み取材対応	10
(5)	シンポジウム基調講演	11
(6)	記者会見（シンポジウム終了後）	11
(7)	ジェームス・リッシュ上院議員面談	18
(8)	連邦政府要人面談	21
(9)	マデリーン・ボルダーロ下院議員面談	21

1 訪米概要

(1) 目的

戦後72年を経た今もなお、国土面積約0.6パーセントの沖縄県に、米軍専用施設面積の約70.4パーセントが存在し、沖縄には過重な負担が続いている。

今回、米国ワシントンD.C.において、基地問題を始めとする沖縄の現状について情報発信を行うとともに、普天間飛行場の移設について辺野古を唯一とする固定観念にとらわれない議論の展開を図り、課題解決に向けた議論を深めるため、「変わりゆく東アジアの安全保障体制と沖縄－在日米軍の在り方の再考－」をテーマに国内外の有識者と連携して、シンポジウムを開催する。

あわせて、米国政府要人、連邦議員等と面談し、沖縄の過重な基地負担の現状、沖縄の基地建設の歴史的経緯、また、基地負担の固定化につながる辺野古新基地建設に反対している知事の考えを正確に伝えるとともに、沖縄県及びグアムの州政府が在沖海兵隊のグアム移転を強力に支持しているが、米国におけるH-2Bビザの発給停止などの政策転換に伴うグアムの労働者不足が、在沖海兵隊の受け入れ先の一つであるグアムにおいて支障となっていることを説明し、米国側の理解と協力を促す。

(2) 活動内容

ア 面談（計6名）

連邦議会議員 2名

有識者 2名

連邦政府 2名

イ 講演

シンポジウム（於：キャピタルヒルトンホテル）

ウ マスコミ対応

(3) 日程

平成30年3月11日（日）～3月16日（金）

(4) 訪米団員

知事、知事秘書、通訳、基地対策統括監、知事公室職員

合計8名

2 訪米日程

日本時間			米国時間			訪米日程
月日	曜日	時間	月日	曜日	時間	
3/11	日	17:00				成田空港発
【以下 米国西部標準時間(PST) 日本との時差 マイナス16時間】						
			3/11	日	10:15	サンフランシスコ国際空港着
3/12	月	4:00			12:30	サンフランシスコ沖縄県人会との懇親会
					15:30	ピーター・ガルビン氏との面談（沖縄ジュゴン訴訟原告団）
3/13	火	1:30	3/12	月	9:30	トーマス・フィンガー氏と面談（スタンフォード大学教授）
		5:00			13:07	サンフランシスコ国際空港発
【以下 米国東部標準時間(EST) 日本との時差 マイナス13時間】						
		10:00			21:00	ロナルド・レーガン・ワシントン・ナショナル空港着
		21:30	3/13	火	8:30	記者会見（辺野古差止訴訟等判決関連）
		23:00			10:00	シンポジウム開催
3/14	水	4:30			15:30	シンポジウム終了
		4:45			15:45	記者会見（シンポジウム終了後）
		6:00			17:00	ジェームス・リッシュ上院議員（アイダホ州選出、共和党）
		22:30	3/14	水	9:30	政府関係者との面談（国防総省 ウィンターニッツ 筆頭部長代行、国務省 ウェブルス担当官）
3/15	木	0:30			11:30	マデリーン・ボルダー口下院議員（グアム準州選出、民主党）
		2:40			13:40	ロナルド・レーガン・ワシントン・ナショナル空港発
		4:00			15:00	ORDシカゴ オヘア国際空港着
		6:15			17:15	ORDシカゴ オヘア国際空港発
【以下 日本時間】						
		20:30				羽田空港着
3/16	金	10:40				羽田空港発
		13:30				那覇空港着

3 訪米団名簿

No.	氏名 Name	職名 Position	備考
1	翁長 雄志 Takeshi Onaga	沖縄県知事 Governor	
2	池田 竹州 Takekuni Ikeda	沖縄県知事公室 基地対策統括監 Deputy Director General in charge of Military Base Affairs, Executive Office of the Governor	事務・総括
3	岸本 義一郎 Yoshiichiro Kishimoto	知事特別秘書 Governor's Secretary	知事秘書
4	金城 典和 Norikazu Kinjo	参事兼基地対策課長 Councilor and Director , Military Base Affairs Division	事務・広報
5	銘苅 奈真 Taishin Mekarū	秘書課主査 Supervisor, Secretary Division	通訳
6	島田 雅之 Shimada Masayuki	基地対策課主査 Supervisor, Military Base Affairs Division	記録・庶務
7	山城 正也 Masaya Yamashiro	辺野古新基地建設問題対策課 Senior Staff, Henoko Base Construction Countermeasures Division	記録・庶務
8	大城 健 Takeru Ooshiro	基地対策課主任 Senior Staff, Military Base Affairs Division	シンポジウム イベント

4 活動の概要

4 活動の概要

(1) サンフランシスコ沖縄県人会との懇談

ア 日時：平成30年3月11日 12:30頃～

イ 出席者等：サンフランシスコ沖縄県人会 約36名

知事をはじめとした沖縄県訪米団 5名

沖縄県ワシントン駐在員 2名

ウ 場所：クラウンプラザパロアルト（サンフランシスコ）

エ 概要：知事からサンフランシスコ沖縄県人会の参加者に対し、観光、物流、情報通信産業など、沖縄の現状を伝えるとともに、世界各国で活躍されている方々への感謝の意を表した。また、世界のウチナーンチュ大会などをテーマに交流を深めた。

(2) ピーター・ガルビン氏面談（沖縄ジュゴン訴訟原告団）

ア 日時：平成30年3月11日 15:30頃～

イ 場所：キンプトン サー フランシス ドレイク ホテル

ウ 面談者：ピーター・ガルビン氏及びスタッフ 4名

エ 概要：翁長知事から、日米の環境保護団体によって提訴された「沖縄ジュゴン訴訟」において、原告適格を認め、差し戻しが確定したことは、今後5月以降とされる差し戻し審による工事停止の可能性を切り開いたものと考えていること、今回のジュゴン訴訟については、検討の結果、沖縄県も米国国家歴史保存法（NHPA）に基づく利害関係者として申し出ることを伝えた。ピーターガルビン氏から、自然を守るということは非常に重要であり、沖縄を守りたい。それは辺野古における新しい基地を阻止するという、やんばるの自然を世界自然遺産に登録することなどを支援すること。また、アメリカにある組織として、アメリカ人としてアメリカ政府に対して自然環境を破壊するようなことはさせるべきではないと考えているなどの発言があった。

オ 面談後の記者囲み取材：知事の発言要旨は次のとおり。

- ・ 沖縄ジュゴン訴訟については、控訴審で裁判所が地裁に差し戻しということをする中で、歴史保全法においていわゆる利害関係者から意見を聞くようにというものと承知しているので、沖縄県がしっかりと説明するのは重要なことだろうと思い、利害関係者として申出をして、機会があれば沖縄の立場、ジュゴンの大切さ、環境問題の大切さも含めて話をしたい。

- ・ 今まで原告団とは、文字であったり、富川副知事が直接対応して後で私の方に報告に来たとか、そういった形での接触であったが、今日お会いして話をすると、大変スムーズにお互いの考え方が理解できた。
- ・ こうして話をしてみると、純粹にジュゴンを守りたい、美しい海を守りたい、これは今生きている人間の責務であるということと、プラスそれを守るために新辺野古基地を造らさないという政治面が入ってくる。政治面が入ってくるとまた趣が違いますが、しかしそれも入らないと止めることはできないので、両方の面からしっかりと対応して環境を保全したい。
- ・ 日本の法律では、辺野古の漁業権の問題にしても、あっさり踏みこじられるというのがあるが、米国の歴史保全法は、他の国の文化財を守るものとして、利害関係者を呼んで義務として意見を聞くという日本では考えにくい仕組みである。その意味から言うと、今の辺野古は米軍も関わっている、辺野古唯一というのは2+2で決めた話ですから、こういったこと等も含めて影響力が大変大きいと私は思っている。

(3) トーマス・フィンガー氏面談（アジア太平洋研究センター教授）

ア 日時：平成30年3月12日 9:30頃～

イ 場所：スタンフォード大学

ウ 面談者：トーマス・フィンガー氏

エ 概要：翁長知事から、沖縄県の過重な基地負担の現状、沖縄の基地建設の歴史的経緯、また、基地負担の固定化につながる辺野古新基地建設に反対していることなど、知事の考えを正確に伝えた。また、辺野古新基地建設計画は、県民の抗議活動や知事権限の行使により、当初の計画よりすでに3年遅れていること、県議会で海兵隊の県外、国外移転や、5年またずに普天間飛行場の運用停止を求めること等の決議が自由民主党を含む全会一致で採択されたこと、建設予定地には専門家により活断層の可能性が指摘されていることなどの説明も行った。

※ 具体的な発言内容については非公表

オ 面談後の記者囲み取材

（翁長知事）

今日この場所でマイク・モチヅキ先生と一緒にアマコスト元駐日大使それからトーマス・フィンガーさんと会談を予定してましたが、アマコストさんがどうも午前中來れないということで午後にできないかという話もあったんですが、僕らはまだワシントンD.C.に行かなきゃいけないので、トーマス・フィンガー氏だけと、まあマイクさん、マイク・モチヅキさんも一緒に話し合いをしてきまし

た。

このトーマス・フィンガーさんというのは、スタンフォード大学のアジア太平洋研究センターの教授で、元国家情報委員会の委員長、これはオバマ政権時代ですね、それから、元国務省の国家情報分析局の担当次官補というような方で、内容も話をさせて頂きました。

僕の方からは、今日までの経緯、それから今の現状、そういったものを話をし意見交換をさせて頂いたわけでありますが、まあ色々やり取りがありましたんで、で、また向こう側の方は向こう側の発言という意味では、この控えてもらいたいということなんで、僕が何を話したかということになるわけですが、この辺のところから何か質問があったらお願いします。

(記者)

知事からお伝えになったことってというのは、まず概略はどういった。

(翁長知事)

やっぱり今までの経緯ですね、まずはね。

よく言われるこの経緯を話す中で、最近の出来事としては、やはり3年間計画が遅れていますよということ、それを今の調子で行くと、15年以上はかかるんじゃないかという話もさせて頂きました。

それから県議会で決議された内容、植民地とかあるいは1年以内の運用停止とかあるいは海兵隊の県外、国外、こういったようなこと等で、今沖縄県もいわゆる自民党から共産党までご一緒しての決議になってるので、大変事態は皆さん方からすると順調に見えるかもしれんけれども、そうでもありませんよという話をさせて頂きました。

例の件は見えましたかね、これね。皆さん方は見てるよね。

これは向こうの、明日ワシントンD.Cでも紹介しますけれども、これは改めて紹介しましょうね。

仲井眞さんが承認をして、それが順調に行った時の、で、赤いのはあれです、護岸工事、つまり今4年近く経つわけですから、もうここまで完成している予定なんですね、ところが今どこまで来ているかという、ここまでということですね、ですから、実質上3年遅れている。

ただ、そうすると、3年遅れるということは、これから約10年ということになるわけですから、そういったこと等を、また色んなことを考えたら、15年以上というのは普通の年月、世界情勢も大きく変わる中で、こういう15年間もこういったものに取り付いてやるのはいかなものかというような話もさせて頂き

いました。

そういったものにもそれなりの返事がありましたけれども、一応は私の方から申し上げたものだけを言いますと、そういう状況ですね。

後いくつかありますけれども、まずはメインはそんな状況だったかなと思います。

(記者)

詳細は難しいということですが、理解を得られたという。

(翁長知事)

状況を私が言う言葉そのものには理解を得たと思いますけれども、またよくそういったものをご存じの方でしたから、その意味から言うと、十二分に内容は理解していると思いますが、その辺はまた向こうが話したのは僕からそれとなく言えないので。

(記者)

先方の発言の内容は知事のお口からはおっしゃれないと思うんですけど、知事からの手ごたえとしては、面談の相手の反応の手ごたえとしてはどのように感じられましたか。

(翁長知事)

個人的には、手ごたえというよりも、やっぱり日米両政府の間で小さな沖縄県がこの沖縄県の主張をする、こういうことの難しさ、やはりそれぞれ国同士で遠慮もあったり、色々言いたいことを言うのを簡単に言えるものではありませんからね。

歯がゆいところの中で物事を見つけ出していくというような難しい会話のやり取りになるわけですから、こういったところはやはりなかなか残念だという感じがしますね。

だからよく今の方じゃなくて、よく話をする時によく話合いなさいよと言われるんですよ。

ところが残念ながら、もうあなた方をご承知ですが、菅さんなんかは話をする時に、僕がしゃべった後、あっちがしゃべって終わりですからね。

しかし、そうではないよね、ああじゃないかというような話まではいきませんので、だから辺野古には作らさない、辺野古が唯一、それだけを言ったら終わりになるというね、それを裏から回っても、色々やりました私も、三役含めですね、

私はそういう話はしませんが、いわゆる水面下での色んな話もするんですが、基本的には辺野古唯一ということですので、よく信頼回復とか議論を交わすべきだというような話がありますけれども、それはなかなか叶わない。

それから日本とアメリカの関係も、日本からすると、米国が後ろでそういうんだよと、ところが米国側は大概の人は、いや、私たちはどっちでも良いんですよと、日本が辺野古に固執してるんですよと言うような話の方がむしろ多い。だからその多いものの解明ができない。

誰に聞いたら、そうそうそうという話になるのかというのが分かりませんので、だからその辺のところをやりながら、そしてそれに対する沖縄側からの疑問、この極東の、あるいは東アジアの同じ自由民主主義、地方自治、そういったようなことの共通認識を持つ国々の安全保障を保とうという両国が一沖縄県にそこまでやるんですかというような話もするんですけれども、それについては米国から言うとやはり日本政府との関係になるし、日本政府からすると後ろからアメリカがというね、実に私からすると嘆かわしい状況の中で、沖縄県は頑張っているということになりますね。

(記者)

どちらかというアメリカ側は沖縄県と日本政府がもっと話合うべきではないかというような印象を。

(翁長知事)

はい、それに対しては沖縄県民からすると、誰と対峙をしているかと言ったら米軍基地と対峙をしているんですよ。

だからあなた方は日本政府と沖縄の問題だと言って当事者外のような気持ちを持っているかもしれんけれども、沖縄からすると、まさしくあなた方は当事者なので、そうすると何か分からない事件事故が起きたりして、県民のマグマが大きく爆発した時にはそれは米軍全体の歩き方にも関わってきますよという話をするんですが、それについての踏み込んだ話は、今ここで話している話じゃないですよ、たくさんちょっと話してきてますので、そういったようなものに対して言うと、なかなかそれ以上論が進まないという状況ですね。

(記者)

今(音声不明瞭)、本日の面談相手にはお話はされてない。

(翁長知事)

話はしています。

(記者)

話はされてる、今米軍基地と対峙しているとおっしゃったこととかですね。

(翁長知事)

はい、大まか、大体僕が話しているうちの8割は話していると思います。

(記者)

はい、ありがとうございました。

(了)

(4) 差止訴訟関係記者囲み取材

ア 日時：平成30年3月13日 8:30頃～

イ 場所：キャピタルヒルトンホテル（ワシントンD.C.）

ウ 概要：知事の発言要旨は次のとおり。

- ・ 一昨年の最高裁判決も、行政手続きの一つの判決であった。そういう中で、大変強引な進め方をしていることは残念。
- ・ ただ、漁業権に関する判断を裁判所は行っていない。一昨年の最高裁判所でも、高裁の内容に触れることなく、高裁は辺野古が唯一だと、それ以外の解決法はないと判決で言っていたが、最高裁はそういったことは全く関係なく、あのような判断を下した。
- ・ 国も、一昨年の最高裁判決や今回の裁判所の判断に関して、工事を積極的にやっていいというような形で捉えてくるとは思うが、今日まで一貫して、どういう立場であっても国は強引に工事を進めてきたわけであるから、これから以降もそういった可能性は十分にあると思うけれども、私たちは、岩礁破碎許可含めいろんな行政手続きについて、冷静な判断をしながら、国には対処していきたいと考えている。
- ・ 控訴については、内容を精査した上で、弁護士とも相談しながら、帰ってから判断したい。
- ・ また、沖縄ジュゴン訴訟については、米国でジュゴンに対する危機感をもって裁判を起こして、第一審では原告適格性がないとして却下されたが、控訴審では、しっかりと意見を言うべきだと、利害関係者として、そういったところから始めなさいとして、差し戻しがあった。
- ・ 今年5月に地裁で審理が始まるようだが、そういうのを考えると、やは

り私どもは、最初の訴訟の中で、沖縄県に基地を置く理不尽性、それから大浦湾における262種の絶滅危惧種、5800種類の生物等いろいろなものが生息するようなところを埋め立ててはいけないと、環境問題を大きな柱にしてやっている。ジュゴンの訴訟もこういった側面があるので、沖縄県としても利害関係者としてしっかりと意見交換しながら、原告団とご一緒にやっていきたい。

- ・ 時期等については、5月が一応の目安ということだから、意見交換しながら、しっかりとその前に対応を明らかにしたいと思っている。

(5) シンポジウム「変わりゆく東アジアの安全保障体制と沖縄－在日米軍の在り方の再考－」

ア 日時：平成30年3月13日 10:30～15:30（シンポジウム開催時間）

イ 場所：キャピタルヒルトンホテル（ワシントンD.C.）

ウ 概要：

(ア) 総合司会 マイク・モチヅキ氏（ジョージワシントン大学教授）

(イ) 第1部基調講演 沖縄県知事 翁長 雄志

(ウ) 第1部基調講演に対するコメント

a ウィリアム・ペリー氏（元国防長官）

b アンドリュー・イエオ氏（米国カトリック大学准教授）

(エ) 第2部基調講演 ウィリアム・ペリー氏

(オ) 第3部パネルディスカッション パネリスト

a モートン・ハルペリン氏（元国防次官補）

b エリック・ヘジンボサム氏（マサチューセッツ工科大学研究員）

c 野添 文彬（のぞえ ふみあき）氏（沖縄国際大学准教授）

※ 具体的な発言内容については翻訳終了後に沖縄県ホームページ及びワシントン駐在の英語版のホームページに動画の掲載を予定。

(6) 記者会見（シンポジウム終了後）

ア 日時：平成30年3月13日 15:45頃～

イ 場所：キャピタルヒルトンホテル（ワシントンD.C.）

ウ 概要：

（記者）

ワシントン4回目ということで、こういったシンポジウムは初めてだと思うんですけども、専門の方々の厳しい質問もあったと思いますが、全体的に振り返って辺野古の新基地建設、代替施設、これについてどの程度の関心がアメリカの

中で広まりそうで、実際具体的に止める手立てに繋がっていきそうかという感触、手応えっていうのはいかがだったでしょうか。

(翁長知事)

はい、過去3回はどっちかっていうと連邦議会、上院議員、下院議員合計で30名超える方々とお一人お一人約30分ずつ色々な話をさせて頂きましたが、なかなか継続性含め、その政権の内部の考え方まで辿り着くというのは、まあ振り返ると簡単ではなかったなという感じもします。

で、有識者のシンポジウムは、一昨年でしたかね、やっぱりマイク・モチヅキ先生が、こう作ってくれて、7名くらいで長時間議論もさせて頂きました。

まあ今回はこういう形で、多くの方々の前で、本当に多彩な方をお招きをして、意見交換できたというのは、私からすると今までの、今日、今回合わせて4回の中では、大変こう自分の思いを伝えることもできたし、それから多くの方の意見を聞くことができたという意味でも、良かったなあという感じをしております。

まあ何名か分かる方もいて、持論と言いますか、ずっとそういう考え方を持っている人がそういう質問をしたとか、色々あります。

ただし、それは話を聞くことによって、いわゆるその感覚というようなものが理解できるわけですから、今日の色々な意見の交換は、大変これからの方向性を考えるという意味では、大変勉強になったなというふうに思っています。

(記者)

シンポジウムでも出ていたんですけれども、そのやっぱり代替案を示すことで解決の道ができるんじゃないかというような提言もあったと思うんですけれども、今日色々な識者の発言等を聞いて、これから基地問題を解決していく上で、今回のその提言をどのように沖縄県の施策に生かしていきたいというお考えをお持ちですか。

(翁長知事)

はい、一つは代替案に関しましては、これもマイク・モチヅキ先生も九州をイメージしながらお考えがございます。

それから国会でも公明党、それから日本維新の会がそれぞれに代替案を出して、政府と折衝もしてもらいました。

うちの副知事もその意味から言うと、柔軟性を持って色々な案についての政府の話も聞いたんですが、ただ残念ながら、辺野古唯一というこの固い姿勢は会話を許してくれないという大変厳しいものがあります。

ですから、よく政府と信頼関係を持って意見交換をして、その中から方向性を出したらどうかという話がありますが、その入り口に入る前に辺野古唯一というものを全く変えるような姿勢が見えませんが、その意味から言うと、この代替案を出すという時に、私共が例えばそれなりの代替案、当然2つ3つ持ってるわけですけども、こういうのを出して出して、切られて切られてという、こういったようなものでこの件はお話することは難しい。

ですから、その意味から言うと、官房長官なり官房副長官なりあるいは防衛大臣なり、1、2時間しっかりと議論をさせて頂くというようなものも作ってくれないと、その意味から言うと、代替案は出すことはできても、それをどのようにやっていくかということについての方向性がちょっと見えない。

ですから、今日色々ご意見もお伺いをして、私なりにまた申し上げたいことも結構ありましたけれども、今日こういうふうな形で聞いたということ自体が必ず先々に繋げられるようなものになるかなあと。

ただし、両政府という意味でどうするかというような課題としては残りますから、私共の考え方を申し上げるのは可能だと思いますけれども、両政府がそれに少なくとも議論してくれるかどうか、これがポイントになると思いますね。

(記者)

今のお答えの中で、代替案もということですが、例えばやはり知事選も控えておりますし、いつ頃までにかそういった目途も含めて、今後の見通しというものについてお考えでしょうか。

(翁長知事)

いや、知事選という意味では、もう毎日毎日、一日一日が一生懸命この4年間の公約を果たすということで頑張っているわけですから、それを目指していつまでというようなことはありません。

ですから、しっかりと自分の役割をこの任期頑張って、県民の前に責任を果たすということが大切だと思います。

ですから、そういう目安の中でいつまでかというようなことは考えておりません。

(記者)

辺野古移設の関連になります。知事、シンポジウムの中で計画が既に3年間遅れているということ、事実として提示をされていましたが、知事の中でこの計画、まあ知事権限等行使していく中で、さらに遅らせることで、いずれは政府が

計画変更なり、計画の断念というのに変わっていくんじゃないかという戦略を描いているかということと、またこの同時に、計画を遅らせるということは宜野湾の普天間の危険性除去が同時に遅れるという難しい問題も後に提起させることになると思うんですが、この辺りはどうお考えでしょうか。

(翁長知事)

今の二点であります、今日北朝鮮の問題、ペリー元国防長官が詳しく話をされておりました。

それから中国の核の問題等々も話がありました。いわゆる国際情勢が、トランプさんと金正恩さんの会話、これがどうなるかというのが見通しが立たないわけですが、ある意味でダイナミックに変わっていく可能性が十二分にあるということは分かります。

ですから、何も伸ばしてどうこうということよりも、今普通にこの4年間で3年遅れてきたというようなことを考えると、十数年かかるというふうに私は思います。

で、今の不確定というようなものからすると、事件事故がこの1年間で30件もありましたし、これはどこに落ちたり、どこで事件事故が起きてもおかしくない状況でありますから、沖縄県民は今日までの70年間、色んなものに翻弄されながら県民の意思を表そうということでやるんですが、残念ながら日本の国民、本土の方々の全体の理解を得ることが難しい環境にあるわけですね。

しかし、それでも私たちは沖縄県民の生命、財産を守るのが、特に知事の責任でありますので、そういった意味では厳正、中立に物事を進めながら、この基地の進み具合については、考えているところです。

それから、そうこうすると普天間は還らないんじゃないかという話があるんですが、私は大変恐縮ですけど、前知事に5年以内の運用停止を言ったのは、私は空手形じゃないかと思っているんですね。

これはなぜかと言いますと、5年以内の運用停止を話した時に、米国側からこの責任あるところからでも話は聞いているというようなことも全くないです。皆全てがこういう話は聞いたことがないというような話の中で、5年以内の運用停止、そして私が辺野古に反対するから、もう5年以内の運用停止もなくなるんだという、こういうことで国の権力は何でもかんでも思う通りに理屈からひっくり返して前に前にと進められる中に、沖縄が最初からそうでしたけれども、沖縄は勝てますかと、できますかという、大変ごく普通の質問のように見えて、両方の権力と闘いながら沖縄県民の思いを伝えることの難しさ、理解できない人にはなかなか理解できないという、その中で地道なことをしっかりやってくということ

が大切だと思っておりますので、今の質問にはそういうことです。

(記者)

知事、すいません。僕の聞き間違いかもしれないので、順だって確認したいんですけども、先ほどお答えの中で代替案の話で、それなりの代替案を持っているかというふうに私は聞こえたんですけども、知事の中でも既にその提示できる、ただ環境が整ってないので、今提示することはしないだけどもという状況で、代替案をいくつか構想されているということでしょうか。

(翁長知事)

代替案については、これまでざっくばらんに5つ6つはあると思うんですよ、組合せもひっくるめてね。

ですから、この辺野古唯一、それから、辺野古には作らさないという中でこの姿勢が安倍総理が、あるいはまた私が代わらないというのはそれで良いとしても、あの5つの案、例えばこうこうしたらこのラインから可能性がありますかとか、そういうようなものはやり取りは副知事辺りが柔軟にやるようにとってあります。

しかしながら、それはあくまでも柔軟にやり取りをするだけで、これで何かが出てきたからオッケーするというようなものではないよということも含めてね、しかし、考え方としては、心を通い合わさなければいけませんので、それはやりましたけれども、残念ながら辺野古唯一というところからは、こちら側からはこういう案も聞こえてきますがと、ああいう案も聞こえてはきますがと、こういうラインで考えることはできるんですかというような話はしておりますが、辺野古唯一から変わったことは一度もありません。

(記者)

今の、すいません、確認なんですけれども、では、その代替案を既に政府とも、日本政府にも話をしたということですか。

(翁長知事)

話をしたと、僕の代替案を言ったわけじゃないですよ。

出てきた案に対して、これまでもこういうのがありますけれども、これについて政府の方でその、これの前、変形だろうが何だろうが、ちょっと可能性は、これのラインからこうあるよという話が聞こえるかどうかのやり取りはしましたが、これで行きましょうや等という話では全くないです。

(記者)

はい、質問の関連で、出てきたことに対してやり取りをして、知事の方から、あるいは県の方から提案したような、水面下ではありますけど、提案した案はないのかということと、今後もそういった代替案というのを提案することは今のところ考えてないのでしょうか。

(翁長知事)

県のいわゆる、例えば私の考えとか、県というようなことでは代替案を出したことはありません。

なおかつ色々な方々、政党が例えばマイク・モチヅキ先生も大変沖縄県からするとありがたい案を発表したことがございますので、こういった案も可能性がありますかというような話はしました。

だけれども、辺野古唯一から変わらなかったということです。

それから、これから以降もやりますかということなんですが、私は何回も申し上げていますが、私が当選したら、半年近く会ってくれなかったんですよ。

どんなチャンネルを使っても官邸も会ってくれなかった。

ところが、名護市長さん新しく当選したら翌日でしょう、会ってくれるというのがね。

こういったようなもののね、地方自治とか民主主義とかというようなものに対しての、それぞれのメディアもそうですけれども、これについてですね、何にも言わないまんまですね、何か対等に議論が出来てるようなね、そういったようなものでは無いわけで、こういった事等をですね、どのようにクリアするかと言うのは、なかなか簡単では無いんです。ですから、自民党の二階幹事長等々とも話はします。ですから、こう言ったような事はいろんなチャンネルをですね、やるんですが、特に二階先生は話は聞いてくれますが、官邸は話もなかなか聞いてくれないというですね、こういう状況ですので、この辺のところもこれから、時とともにね、どのように変わっていくかというのは、私なりに考えて行きたいとは思っています。

(記者)

お疲れ様です。沖縄タイムスの平安名夏美です。秋葉外務事務次官がですね、米側との協議で、沖縄への核留貯蔵可能性について協議してきたんですけども、私たちは入手してきたメモというのは、ハルベリーさん宛てだったんですけど、

先ほど確認したら確かにこれ受け取りましたと。その書いた人も信用できる人ですと。この文章内容って言うのを確認されてました。この会議があったこと自体が私は承知してるという話されていたんですよ。この件に関してコメント頂けますか。

(翁長知事)

私も報道等でね秋葉事務次官がそのような発言をしたという事は、承知を致しております。それを政府側はどういう形であれそういったものは無いと言っているのか、返事が出来ないと言っているのか分かりませんが、いわゆるそういう事についての断定的なこの政府の見解みたいなものが未だ見えてきません。だから、沖縄県のそのいろんな基地問題の防衛局に行ったり、沖縄大使のところに行ったり、外務大臣のところに行ったり、防衛大臣のところに行ったりするんですが、まさしく全部お答え頂けるというような事はないわけですね。ですからこの核兵器の問題もNHKの特集など含めて、沖縄の復帰前に核があったというのは間違いない。それからニクソン大統領と佐藤総理で密約があったというような事もほぼこれは確定的な話で専門家の方からも聞かされておるわけですが、ただ政府からすると無かったというような話をするような状況であります。ですからそれを踏まえた上で今言う秋葉事務次官の言葉も私の感想から言うと、あり得る話である。また今日の議論の中でも核がまだあるなかでですね、どうやってそれを抑止力でやるかと話をされておりましたけれども、そうするとその時に核をどこに置くかという事になると、今のような現状ではですね、沖縄に置くというような危機感を大変あります。それを本土の方に置いてとても自民党の国会議員がね、そういうのに耐えられるような選挙区の人がですね、それは出来ない、やはり沖縄にという事になる可能性は十二分に感じられる。但し、それを確認する方法も全くありませんので、この確認出来ないようなものにですね、私がどうだああだと言うような事は大変今の関係から言ってもね、これは言うべきではないだろうというふうには思っています。ですから今のご質問にはそのような関心、感覚を私が持っているという事ではありますが、これを知事として政治的立場として言うには未だ確認とかそういったものについてですね足りないという事です。

(記者)

最後。パネルディスカッションの中で、今後駐留する必要は無くとも既存の民間の施設を使うような事が出来れば、負担も軽減されるようなプレゼンスっていうのの在り方もあるんじゃないかって言う趣旨での提案もあったと思うんです。普天間基地は今あるから使っていると言うような話で、他の民間施設も使えれば

と言うような話が出てきたことについて、それが沖縄の民間施設であろうと本土の民間施設であるとかそういうのが含まれると思うんですけども、沖縄の民間の空港に使うという事に関しては、代替案と言いますかそういった提案としては、知事のお考えはどうなんでしょうか。

(翁長知事)

これは辺野古唯一と言ってる中でね、極端な話私がA空港B空港それでどうだなどという話をしてですね、一顧だにされなかった場合はですね、沖縄県民はね大変傷つくと思うんですよ。じゃあこれはどうだ、あれはどうだ。例えば従来出たキャンプ・ハンセン、キャンプ・シュワブ、そこにヘリポートを作っただけ、そして垂直離着陸のものは嘉手納に行って、嘉手納のものは向こうにやってという事の話をしたのはですね、少し話が出ただけでね、金武町や宜野座村の人はですねとんでもないと、なにを今でも大変なのに何がキャンプ・シュワブ、そこにねヘリポートを作るんだというようなね案になるわけですね。ですから、この問題は軽々に口を出して言い出すとですね、沖縄県民の思いがですねてんでんばらばらになってですね、また高見の見物をね日本政府がする。そういったような形で沖縄県民がですねまた心ですね割っていく、こういうことはなかなか簡単ではないんです。だからやり方も含めてしっかりと慎重にやらないといかないという事だけは、はっきりしています。

(了)

(7) ジェームス・リッシュ上院議員面談

ア 日時：平成30年3月13日 17:30頃～

イ 場所：上院議員会館 議員居室

ウ 面談者：ジェームス・リッシュ上院議員及びスタッフ

エ 概要：翁長知事から、沖縄県の過重な基地負担の現状、沖縄の基地建設の歴史的経緯、また、基地負担の固定化につながる辺野古新基地建設に反対していることなど、知事の考えを正確に伝えた。また、辺野古新基地建設計画は、県民の抗議活動や知事権限の行使により、当初の計画よりすでに3年遅れていること、県議会で海兵隊の県外、国外移転や、5年またずに普天間飛行場の運用停止を求めること等の決議が自由民主党を含む全会一致で採択されたこと、建設予定地には専門家により活断層の可能性が指摘されていることなどの説明も行った。

あわせて、沖縄県及びグアムの州政府が在沖海兵隊のグアム移転を強力に支持しているが、米国におけるH-2Bビザの発給停止などの政策転換

に伴うグアムの労働者不足が、在沖海兵隊の受け入れ先の一つであるグアムにおいて支障となっていることを説明し、米国側の理解と協力を求めた。

※ 具体的発言内容については非公表

オ 面談後の記者囲み取材

(翁長知事)

ただいま、連邦議会で JAMES E. RISCHE 上院議員、これはアイダホ州選出の共和党ですね、上院外交委員会に所属しております、説明の中では、今の委員長が辞められるので、次の次期委員長ということで大変有望な方だというふうに略歴に書かれております。

で、一点話をしたのは、4回目になりますと、そういう（音声不明瞭）説明をしましたが、今回はということで、この冊子をそれぞれ見ながら私の方で沖縄の位置はこうなってます、グアムはこうなってますという形で説明をして、それなりの歴史、抗議行動、そして普天間がこういう状況というようなことを説明をしまして、今3年遅れていると、だからこれから以降もなかなかそう簡単には前に進まないの、ぜひとも議員の方でこういったこと等も、ぜひ打ち出して、日米安保体制が大切だと思ってるので、そういうことで壊さないでというような話をしましたら、基本的には内容は言わない方が良くということでございますので、まあ一言ということになりますと、説明をしてくれてありがとうございます、そういう意味で理解できましたということはあるんですが、それ以外にちょちょこ意見はおっしゃってましたけれども、それはなしということで宜しくお願いします。

以上です。

(記者)

説明を理解したという意味で。

(翁長知事)

大体どの議員もそうおっしゃるんですが、じゃあこれはどうなんだ、あれはどうなんだというようなこと等もありましたが、こういうようなやり取りはオフレコということですね。

(記者)

知事は、基地問題の沖縄の現状の事を一番訴えられたのか、もしくは中でもその辺野古の反対だということを強く訴えられたのか、どこに力を入れたんですか。

(翁長知事)

いずれにしろ今日までの経緯があるんですけど、今こういう形で、で、この方も恐らくは初めて聞く話かもしれませんので、前半を省略するわけにはいきませんから、一定程度話をする中でこういう順序でやりました。

ですから、ぜひともその辺野古に移すのは止めて頂きたいと、そしてその移設する場所ということについては政府とも色々話をしようとするんですが、なかなかできないんですが、色んな案がありますので、そういったようなこと等はまた議員の方でも聞いていただいて、何とかこの新辺野古基地を埋め立ててここに普天間が来るようなことがないように、一つ宜しくお願いしますということであります。

(記者)

どのくらいその政策決定に影響力がある人なんですか。

(翁長知事)

読みますと、上院外交委員会の多数党序列ナンバー2、ナンバー1はコーカー委員長、のポジションにあり、2018年末にコーカー委員長が退任後は同委員会の委員長になると見られているということですので、そういう方だというふうに思っております。

宜しいですかね。

(記者)

知事の手応えとしては、今日お話しされてどんな感じ。

(翁長知事)

いやあの、しっかり聞いてはくれて、まあ補佐官もお出でになって2人で聞いてくれましたから、その意味では内容ももちろんあるというふうには思っています。

(記者)

ありがとうございました。

(8) 連邦政府要人面談

ア 日時：平成30年3月14日 9:30頃～

イ 場所：国務省

ウ 面談者：国防総省 ウィンターニッツ筆頭部長代行

国務省 ウェブルス担当官

エ 概要：翁長知事から、沖縄県の過重な基地負担の現状、沖縄の基地建設の歴史的経緯、また、基地負担の固定化につながる辺野古新基地建設に反対していることなど、知事の考えを正確に伝えた。また、辺野古新基地建設計画は、県民の抗議活動や知事権限の行使により、当初の計画よりすでに3年遅れていること、県議会で海兵隊の県外、国外移転や、5年またずに普天間飛行場の運用停止を求めること等の決議が自由民主党を含む全会一致で採択されたこと、建設予定地には専門家により活断層の可能性が指摘されていることなどの説明も行った。

あわせて、沖縄県及びグアムの州政府が在沖海兵隊のグアム移転を強力に支持しているが、米国におけるH-2Bビザの発給停止などの政策転換に伴うグアムの労働者不足が、在沖海兵隊の受け入れ先の一つであるグアムにおいて支障となっていることを説明し、米国側の理解と協力を求めた。

※ 具体的発言内容については非公表

(9) マデリーン・ボルダーロ下院議員面談

ア 日時：平成30年3月14日 11:40頃～

イ 場所：レイバーン議員会館

ウ 面談者：マデリーン・ボルダーロ下院議員

エ 概要：翁長知事から、沖縄県が米軍再編による在沖海兵隊のグアム移転を含む国外移転を着実に実施することが重要であるとの県の考えを説明した。また、平成30年1月に、グアムを訪問し、翁長知事とカルボ知事が、沖縄県とグアムの州政府が、沖縄県の負担軽減と海兵隊を受け入れる際のグアムの負担軽減について、お互いに協力しながら進めることで合意したこと、引き続き、日米両政府に対し、課題の解決に向けて協力して進めたいとの考えを説明し、理解と協力を求めた。

知事と議員との間で、沖縄とグアムの連携の重要性について確認された。

※ 具体的発言内容については非公表